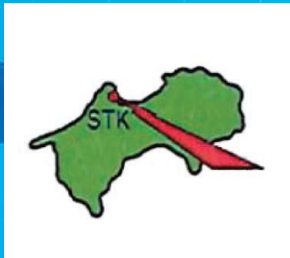




地元のインフラ、スポーツ・文化を支え続ける企業でありたい ～「ありがとうサービス。夢スタジアム」の建設～

四国通建株式会社



私たちは地域社会の基盤整備に、未来を支える子供たちの育成に、スポーツの発展に、そして文化の振興により貢献できるよう、企業としての総合力を高め積極的な取り組みを続けます。

その取り組みの1つとして、地元サッカークラブのスタジアム建設についてご紹介いたします。

1. 地元のスポーツクラブの支援

ゴール!! 開始から前半8分、FC今治の先制ゴールに観客席が揺れ大きな歓声が上る (写真1)。

昨年の9月11日、元日本代表監督岡田武史オーナー率いるFC今治とアルヴェリオ高松との一戦が「四国通建マッチデー」として開催され、10対0の大差でFC今治が快勝しました。

この日は、あの元日本代表のラモス瑠偉氏が激励に駆けつけてくれ、ピッチで一般の人と一緒にプレーを楽しんだり、場外のグッズショップの店頭に立ったり、また、サイン会も行なうなど終始笑顔で試合終了まで観戦されました。今シーズンからは、FC今治のチームアドバイザーとして就任し指導されています。

2. ありがとうサービス。夢スタジアム建設

弊社では以前から地元のFC今治のスポンサー企業として、さまざまなサポートを続けている中、2016年に入り、FC今治のホームスタジアム建設という話が持ち上がり、是非ともお役に立ちたいと思っていたところ、幸運にもこの建設工事を受注することができました。



写真1 桜井海浜ふれあい広場サッカー場
【FC今治vsアルヴェリオ高松】



写真2 夢スタジアム完成イメージ

今治市に本社がありスポンサー企業でもある弊社では、選手の皆さんが安心してプレーできるよう、また、ご発注者様、地元の皆様からの期待に応えられるよう、良質な設備構築、高品質な施工を目指し、全社を挙げて取り組んでいます。

(1) 工事概要

- 総敷地面積 28,581.1㎡
 - クラブハウス棟 1棟
 - トイレ棟 3棟
 - 観客席 (収容客員数 5,103名)
 - グラウンド・ピッチ全体A=10,375㎡
 - 天然芝 (ティフトン芝) 仕様
- (写真2・図1)

(2) 起工式

2016年5月24日、愛媛県今治市高橋ふれあいの丘の建設予定地で起工式が執り行われ、行政、クラブ関係者、工事関係者などが出席し工事の安全を

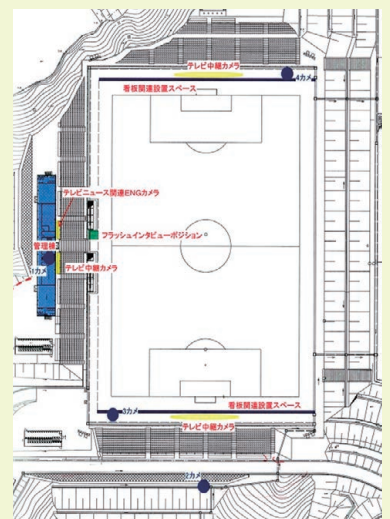


図1 施設平面図

祈願しました (写真3・4)。

関係者より多数のマスコミを前にして、岡田武史オーナーから「スタジアムはJリーグ昇格に必要で、いろいろな人の力で環境が整っていく。あらためて身の引き締まる思いがする。サッカー以外でも市民が集まる場所にな

れば」と期待を込めたコメントがありました。

弊社は地域に根差す企業として、このスタジアム建設に関わることを誇りに思い、選手の皆さんが安心してプレーできるピッチ、観客の皆さんと選手が一体となって楽しめる観客席の建設に全社を挙げて取り組もうと決意を新たにしました。

(3) 伐採

建設予定地である今治新都市のふれあいの丘はスポーツを通じた地域連携や広域交流のゾーンとして開発された地区ですが、山野に隣接し、建設予定地でも樹木が茂っており、まずは伐採が大きな作業となりました(写真5)。

時間はかかりましたが、この作業により、作業エリア全体が見渡せるようになり、完成イメージをより明確につかむことができるようになりました。

(4) 観客席

観客席は当初クラブハウス正面のバックスタンドを予定していましたが、岡田オーナーの強い希望もあり、クラブハウスがある山側のメインスタンドとその左右の3カ所に変更することになりました。

工事期間中にはオーナー自らクラブハウス、スタンド等についての打合せや現地視察等何度も足を運び、工事の進捗状況や出来栄の確認だけでなく、工事従事者へも頻繁に激励の声を掛けていただきました。

こうしたことから「ありがとうサービス、夢スタジアム」への並々ならぬ



写真3 鍬入れの儀
岡田オーナー(左) 阿部社長(右)



写真4 記念撮影

熱意を感じ、工事関係者一同、是非とも期待に応えたいとの思いを強くしました。

観客席の設置は、法面の切土を1段1段行い、長さ1.5m、高さ45cm、厚さ5cmのPC板(プレキャストコンクリートの略であらかじめ応力を加えたコンクリート材)を据え付けて固定し、コンクリート打設を行います(写真6・7)。

この作業を繰り返し、全部で1,659枚のPC板を据え付けることになるのですが、全断面を段切りするとすべてがクレーン作業となり、非効率でとても不経済な作業となってしまいます。

そこで、高さ2m(5段分)、延長約40~60m程度に区画割りをし、その区画ごとに残土の搬出、PC板の据付を行いました。

作業開始当初は、1日20枚のPC板据付が精一杯でしたが、慣れるにしたがって要領も分り、最高で60枚の据付ができた日もありました。

また、材料搬入は一括で搬入せず、

必要箇所に必要枚数を搬入することで無駄な移動を減らし、重機やダンプの接触事故のリスク低減を図りました。

こうした取組みの結果、約40,000m³の残土処理と、1,659枚のPC板の据付を予定どおり、3月末に終わることができました。

(5) クラブハウス棟・トイレ棟

クラブハウス棟はメインスタンド最上段部分に位置し、メインスタンドとの距離は1.5m程度となっています。メインスタンドを先行して建築すれば建屋の基礎工事が困難となる一方、建屋を先行して建築するとメインスタンドの工程に大きな影響が出ます。

そこで、工期および安全の観点から、メインスタンドと同時に施工する計画を立てました。計画実現のためには、建設資材の搬入ルート、作業エリア、作業時間等多くの制約があるため、より綿密な工程計画が必要になるとともに、計画に沿った確実な実施が求められます。詳細な計画を詰める際や実際に施工するときなど、いろいろ



写真5 着工前 樹木が密集



写真6 段切、PC版設置



写真7 コンクリート打設



写真8 スタジアム全景



写真10 クラブハウス内側もブルー



写真9 クラブハウス



写真12 防球ネット

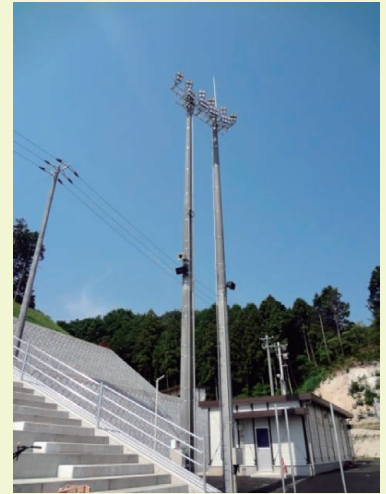


写真11 照明設備

と競合するところもありましたが、すべての関係者に全体の効率・安全を最優先に考えて行動していただいた結果、予定どおり3月末に完成させることができました。

クラブハウスは、室内外ともにFC今治のチームカラーである青を基調としたデザインで、森の緑、空の青さに溶け込むような自然と調和した建物となりました(写真9・10)。

トイレ棟に関しては5,000人の収容人員を満足するように総便器数68個を設置し、大便器にはすべて温水洗浄便座を完備した設計がされています。また、トイレ棟3棟の内の1棟は身体の不自由な方用にオストメイト対応トイレとなっています。

建築基準法・消防法等の関係諸法令はもとより、J3スタジアム設置基準、環境への配慮、身体の不自由な方への気遣い等、今まで経験の少なかった分野についても大いに勉強させていただきました。

(6) 照明設備

グラウンド照明は柱長24mのコンクリートポール2本、LED投光器10灯、4mの避雷針を1組として4組の設置

を行いました。

まず、24mのコンクリートポールを12m2本に分割して搬入し、フレア溶接で接合します。その後、超音波探傷試験で溶接の不備がないか確認し、溶接接合箇所には錆びが出ないように錆び止材の塗布を行った後、25tクレーンで建込みをします。

建込み終了後、地上にて組立てを行ったLED投光機10灯を高所作業車と25tクレーンを使用して設置し、避雷突針の調整、配管を行って1組が終了となります(写真11)。

観客席のPC板設置中での作業となるので、効率的で安全な作業を行うためには、搬入ルート、照明設備設置位置付近の施工ヤードの確保が欠かせません。調整のため何度も打合せを行い、注意事項の1つひとつについてもしっかりと共有して作業に取りかかりました。特にクレーン作業については、旋回範囲内への立入禁止の徹底を図りました。

(7) 防球ネット

防球ネットは弊社の得意分野である建柱スキルを活かし、柱長8mのコンクリートポール(地上高6m)を16

本建柱し、全長約140mにわたりネットを張りました(写真12)。

防球ネット設置工事は、東面の排水構造物、平張りコンクリートの施工に合わせての作業となりました。

排水構造物の施工終了後、直ちに建柱、それが終われば平張りコンクリートの施工、その後ネットの編込みを行うという、とてもタイトな作業スケジュールになりましたが、事前の調整がうまくできたことから、トラブルなしに終了することができました。

(8) グラウンド・ピッチ

グラウンド・ピッチの造成は、観客席の設置やクラブハウス棟の建築等と並行して行われ、最も長期にわたる作業となります。

重機、ダンプその他多数の車両が行き交う中での作業となりますが、各協力会社の作業内容、作業エリアの確認を毎日行い、できるだけ安全かつ効率的に作業が進められるよう調整してきました。その結果、小さな接触事故もなくほとんどの工程を終了することができました。

残工程はあと少しですが、最近、グラウンド・ピッチに6.5mピッチで縦断



写真13 グランド・ピッチ

方向・横断方向に暗渠排水管を布設しました。

そして、グラウンド・ピッチ内全体を砂で敷き均し転圧した後、天然芝が育ちやすいように肥料の散布、攪拌（土壌改良）を行いました。

ここで使用する天然芝は、「バミューダグラス」と言われるアメリカ原産のもので、暖地型芝草の中で最も繁殖力が強く、また、踏圧・擦り切れからの回復力が強いのが特徴です。

4月29日、選手の皆さんを交えて芝生の植え付け作業が始まりました。

選手の皆さんも一緒になって作業することで、このスタジアムへの愛着が一層増したのではないかと期待されます（写真13）。

(9) ありがとうサービス、夢スタジアム最新情報

主要工程はほぼ終わり、今年4月末に植え付けを行った芝生が、順調に成長するのを待つばかりとなっています。

この芝生は、成長にともない、転圧・目砂散布・液剤散布・刈込等を繰り返すことで、立派な天然芝へと成長させ

ていきます。

本スタジアムの建設は、FC今治の選手、サポーターだけでなく、地域のあらゆる皆様の期待を集めています。最後まで気を緩めず、安全に配慮しながらより良い設備づくりに取り組みます。

この記事が皆様のお手元に届くころには、新しいスタジアムでホームゲームが開催され、勝利の情報が飛び交っていることでしょう。

JFL初公式戦は、9月10日（日）にヴェルスパ大分戦が予定されています。

ここをホームスタジアムとして日々のトレーニングに励み、ゲームを重ねる中で力を付けたチームが、J3、J2、J1へと昇格し、全国ネットでTV放送される日を楽しみにしています。また、このスタジアムから日本代表となり、多くの観客を魅了し感動を与える世界的プレイヤーが誕生することを願っています。

3. その他の工事

その他、弊社では今年の秋に開催される「愛顔（えがお）つなぐえひめ国体」に向けた設備の新設・改修工事に多数関わらせていただきました。

中でも、国体の正式種目として軟式野球が行われる今治市営球場の改修工事では、建設部が、外野スタンドと球場周辺整備、電設部がスコアボードとナイター照明、そして関連会社の越智電気工事(株)が補助球場のナイター照明と、正に会社を挙げての取り組みをさせていただきました（写真14）。

その結果、土木・建築部門で今治市優良建設工事表彰を受けるなど、ご発注者様から高い評価をいただくことができました。

また、国土交通省様から受注した今治～小松自動車道の延伸工事をはじめ、橋梁改修などの土木工事の他、学校や官公庁などの建築工事にも力を入れています。（写真15・16）

最近では、今治市浄水場建設工事をプラント機械企業との建設JVで受注することができました。この工事は、その受注金額が弊社の歴史上一番となる大型工事です。工期が長期にわたりますが、生活を支える大切な水に関わる工事であることを常に意識し、持てる限りの技術と熱意を注ぎ、全力で取り組みたいと思います。

4. おわりに

四国通建では、通信工事を核としながら、電設・土木・建築工事やICT事業等も積極的に行うことで、地域の皆様から支持され成長させていただきました。

地域の皆様に喜んで使っていただける建物や設備を提供できることに誇りを持ち、通信建設事業とともに、こうした事業も含めて、さらに発展し続けられるよう新技術の習得はもとより、品質・安全管理のノウハウ蓄積や人材育成に努め、会社としての総合力を高めることで、より一層地域社会に貢献してまいります。



写真14 今治市営球場整備



写真15 今治～小松自動車道延伸工事



写真16 松野中学校新築